

第4学年国語科学習指導案

児童 4年2組 男12名 女19名 計31名
指導者 室岡純子

相手の考えを受け止めて聞き、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く力を育てる学習活動の工夫

1 単元名 読んで想像したことを伝えよう (学習材名「ごんぎつね」 光村4年下 他)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「白いぼうし」で、色やにおいなど、場面の情景を想像させる言葉を手がかりにしたり、会話や行動から登場人物の人柄について想像したりしながら読む学習を行ってきた。

「一つの花」では、題名や作品のかぎになる言葉に着目したり、場面を対比させたりしながら登場人物の様子や気持ちを想像して読む学習を行ってきた。これらの学習を通して、児童は、登場人物や場面の様子を叙述に気を付けて読むことができるようになってきている。しかし、叙述から離れて想像している児童も見られる。

読むことの学習の中で互いの考えを聞き合うことについては、相手の考えを受け止めながら聞くようとしているが、相手の考えや理由に気を付け、自分のと比べながら詳しく聞くことは十分であるとはいえない。

このような児童に、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読んだり、互いの考えや理由に気を付け、比べながら聞いたりする力をつけていくことが大切であると考える。

(2) 主たる指導事項と学習材

(P 2 2 参照)

(3) 指導にあたって

(P 2 2 参照)

3 単元の目標

(P 2 3 参照)

4 単元の評価規準

(P 2 3 参照)

5 学習指導計画 (18時間扱い)

(P 2 3 参照)

